

若年者献血セミナー事業事例

【事例 5】

- 実施センター名 : 北海道釧路赤十字血液センター
- 実施名称 : 技術部門における「若年者献血セミナー」
- 実施日時(期間) : 平成 19 年 8 月夏休みの 5 日間 9:00~17:30
- 実施場所 : 北海道釧路赤十字血液センター
- 協力団体 : 釧路短期大学、釧路高等専門学校
- 実施目的 : 少子化献血推進対策の一環とし、献血推進部門の主体形を技術部門から更に支持することで、より専門的な技術系学生の献血の理解と協力が深まるものとする。
- 実施内容 : (1) 工学的素養を持つ学生に対し、製造部門でのバリデーシヨンの実地体験を中心に採血・供給部門等の研修を行った。
(2) 解剖生理学実習の 1 コマとして栄養士課程学生が、製造部門の全工程を見学し、技術職の担当者が血液成分とその機能について講義を行った。
- 実施評価 : 献血の次世代の担い手となる 20 歳前後の学生実習を技術部門で積極的に受け入れることは、若年層への献血推進活動として新たな視点への期待にも繋がると考える。
- 実施結果 : 参加者 : 31 人 参加校 : 2 校
当セミナー実施後、釧路短大において、献血を実施したところ、前回は大きく上回る協力(約 80 名)が得られた。また、同短大食糧栄養専攻の学生は献血不適となる貧血改善等に向けた食生活の普及に意識が高まるようになった。



【事例 6】

実施センター名 : 沖縄県赤十字血液センター

実施名称 : けんけつキッズ・サマースクール

実施日時(期間) : 平成18年6月7日(水)～平成19年2月8日(木)

実施場所 : 美東小学校、兼原小学校、伊波中学校、KBC学園
県立八重山商工高等学校他10校

協力団体 : 沖縄県、骨髄バンクを支援する会

実施目的 : 若年層へ血液・献血についての知識を深めることにより献血思想の普及を図る。また、献血実施校については、献血への参加を促すとともに安全な献血を行うことを目的とする。

実施内容 : 骨髄移植経験者による輸血体験談の発表。血液センター職員により血液のしくみ、献血の重要性、献血から供給までの流れ等を説明(パワーポイント使用)

実施評価 : 若年層に対し、輸血の体験談や献血の重要性を視覚的に説明することにより献血への理解促進が図れた。

実施結果 : 参加者: 総計2,351人



(参考: 過去の実績)

平成16年度約2,100人

平成17年度約1,950人

県赤十字血液センター
献血推進課の「献血教室」が六日午後、県立宮古農林高校(下地盛雄校長)の三年生を対象に同校視聴覚室で行われた。同センターの大浜龍二。

“命”救うボランティアを

県赤十字血液センター 献血教室を開催

献血推進課長は「献血は命を救うボランティア。血液は人的に造ることができないので一人ひとりの協力が必要」と強調した。

同教室は生徒及び職員が六日午後、県立宮古農林高校(下地盛雄校長)の三年生を対象に同校視聴覚室で行われた。同センターの大浜龍二。

献血推進課長は「献血は命を救うボランティア。血液は人的に造ることができないので一人ひとりの協力が必要」と強調した。

同教室は生徒及び職員が六日午後、県立宮古農林高校(下地盛雄校長)の三年生を対象に同校視聴覚室で行われた。同センターの大浜龍二。

明。血液の成分である赤血球、白血球、血小板には寿命があるとして、「県内の需要をまかなうには一日に百八人前後の献血が必要」と説明した。また輸血が必要な場合について、「災害や事故にも大出血▽心臓病・分娩時▽大手術▽血液の稀薄▽新生児交換輸血」などを挙げ、「輸血によって患者の病気を治すことができるが、実際に人命を救うのは献血する人」と述べ、献血への理解を協力を求めた。

生徒を代表し新聖愛斗華くんが「白血病で亡くなる人は年間でも多く、CMやラジオでもよく流れている。きょうの話をしっかり受け止め生徒一人ひとりがよく考えたい」と抱負の言葉を述べた。